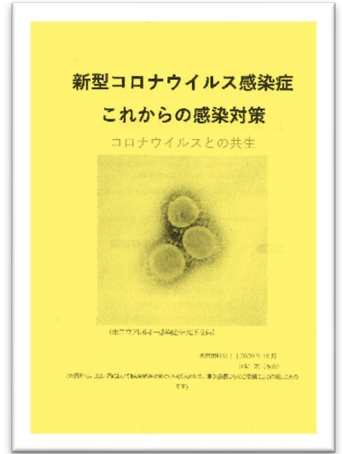


【矢来東町会】 『新型コロナウイルス感染症対策小冊子』を発行 ～顔の見える関係づくりが地域の力を引き出した好事例～



－ 事業概要 －

- ① 目的：町会内専門家（医師）の協力により、新型コロナウイルス感染症への注意喚起のための小冊子を発行した。身近な専門家が作成した小冊子を会員に配付（回覧）することで、町内全体での感染症予防意識の向上を図るとともに、集まらないながらも町会内の連帯意識、「絆」を高める。
- ② 実施時期：令和2年11月

★町会長にインタビュー★



津吹会長

【小冊子作成のきっかけは？】

「顔の見える町会」を目指し、町内福祉施設と連携した防災訓練を実施していました。訓練と合わせ「健康講座」を社会福祉協議会等と実施したところ、参加者から「お手伝いしたい！」との申し出があったことから、令和元年には、町会員である河野ドクターを講師とした健康講話を実施しました。

令和2年は、新型コロナウイルス感染症拡大により実施ができませんでしたが、未知のウイルスへの感染防止を身近な専門家から呼びかけてもらうことによる意識啓発と、まちの絆を深めるために作成してもらったものです。

【工夫したことはありますか？】

防災訓練だけでなく、みなさんの関心の高い「健康」をテーマとすることで、今までより多くの会員の参加につながりました。

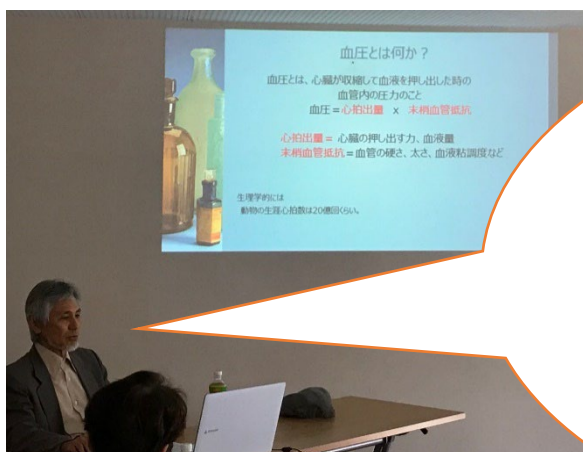
感染症予防意識啓発のための小冊子については、「わかりやすさ」を意識し、より多くの方々に理解してもらいたいという思いで作成を依頼しました。

【今後の町会活動について】

まちが有する地域資源・地域人財の活用による「顔の見える」関係づくり・「自助」「共助」の意識を発展させるため、新たな連携先を探し、コロナ禍でも停滞することなく、まちの「絆」を深めていきたいと考えています。また、感染症予防が日常となるよう、小冊子の第二弾の発行も考えています。

「絆」～声かけ合おう むこう三軒 両どなり～

笹筒町地区の精神に則り、積極的な町会活動を展開していきたいと思えます。



▲令和元年に実施した健康講話

★ 河野ドクターから地域のみなさんへのメッセージ

ワクチン接種への不安により、接種を迷っている人もいますが、接種をしない方が増えると感染対策としての効果も減少してしまいます。

また、みなさんへのお願いは「適切なマスク」を「適切に使用」し、感染リスクの高くなる環境を避けて、感染しない・させない（三密を避ける）行動を取ってください、ということです。

そして、神楽坂は飲食店も多いため、早く、飲食を過度に制限しないで済む対策が確立してほしいと思っています。